

ことばのミニ事典

国際マザーアース・デー

4月22日は国際マザーアース・デー（International Mother Earth Day＝国際母なる地球の日）。2009年4月、国連総会で採択され、2010年に始まった国際デー。

すべての生物を育む母なる地球・自然環境が、人類と調和しながら、未来に向けて持続することをめざす取り組みであり、従来のアース・デー（Earth Day＝地球の日）を受け継いでいる。

アース・デーは、1970年4月22日、米国のスタンフォード大学学生自治会のよびかけで始まった環境保護のための啓発・実践運動。やがて地球温暖化、酸性雨などの環境問題に関心が高まり、90年代以後は「地球のことを考えて行動する日」として毎年取り組まれる国際的運動に発展。

日本でも川岸や海辺のゴミ拾い、フリーマーケット、シンポジウム、集会など、市民レベルでさまざまなイベントが各地で行われてきた。



農協

農業者の協同組織、農業協同組合は1947年12月施行の農業協同組合法に基づき、戦前の農業会を改組する形で1948年発足。

農協は、地域の単位農協が約700、単位農協を補完し連携する都道府県中央会、事業別の連合会（JA全農、農林中金、JA共済連）があり、さらに農協への指導・監査、行政への建議などを行う全国農業協同組合中央会（全中）で組織されている。JAは農協グループの愛称である。

単位農協の多くは、経済事業（共同販売・購入）、信用事業（貯金・融資）、共済事業（保険）を行う総合農協であり、信用・共済事業の黒字で経済事業の赤字を補って経営を維持している。

だが、安倍政権が15年2月にまとめた農協「改革」案には、単位農協からの信用・共済事業の分離が盛り込まれた。これは日米の銀行・保険業界がかねてから要求していたこと。さらにTPP反対の先頭に立つ全中の弱体化を狙って、中央会の実質的廃止、全中の単位農協への監査権限取り上げも盛り込んだ。

農協「改革」は、世界で一番企業が活躍できる国づくりに向けて「岩盤規制」打破の突破口となっている。



暮らしの知恵袋

◆野菜の保存法

一人暮らしや少人数家庭では、野菜を短期間では使い切れません。できるだけ新鮮に保つため保存方法に気をつけましょう。

キャベツ、青菜、大根、カブ、新たまねぎなど、葉もの、根菜などは基本的には、新聞紙に包んでビニール袋に入れて冷蔵庫に保存します。適度な湿度が保てるので、比較的長く新鮮さが保てます。これがビニール袋だけではいたみやすく、新聞紙だけだとすぐに干からびます。

人参やいも類などの保存は別の方法で。人参は空気に触れないよう、1本1本ラップなどでぴったり包んでからビニール袋に入れて冷蔵庫で保存すると、驚くほど新鮮さが保てます。

じゃがいもやさつまいも、普通の玉ねぎは、日が当たらず風通しのいい所で、常温で、かごなどに入れて保存します。

世の中
介護「退」操
保険料アゲテ
介護報酬サゲテ
介護士待遇アゲズニ
介護施設オテアゲ

